

2

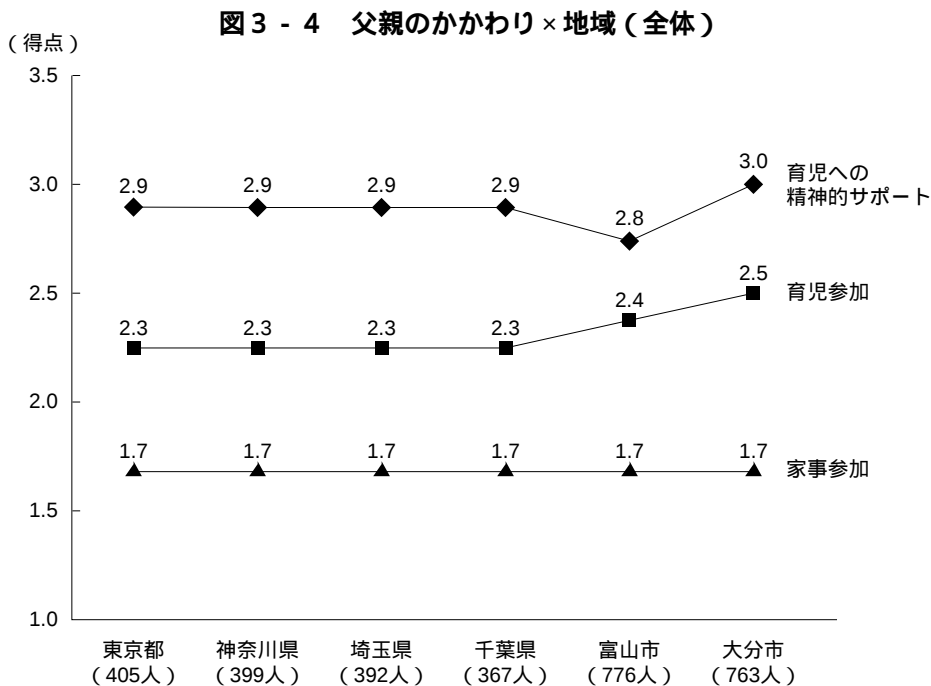
属性による父親のかかわりの比較

以上、育児への精神的サポート、育児参加、家事参加の3つの視点から父親のかかわりを各項目ごとに見てきたが、次に地域、子どもの年齢、母親の就業状況という属性の違いによる父親のかかわりについて見ていくことにしよう。

なおこれ以後、父親のかかわりについては各項目ごとに1点から4点までの得点化を行い、3つの各領域について平均得点を算出して結果を見ていく。

地域差はほとんどない(図3-4)

図3-4は父親のかかわりに地域的要因による違いが見られるかを検討した結果である。これを見ると、地域差はあまり大きくないことが示されている。特に家事参加ではどの地域も平均得点が同じである。また精神的サポート得点と育児参加得点において、大分市の父親が若干高めの結果を示しているものの、地域的な要因による差はそれほど大きくないと言ってよいだろう。



子どもの加齢に伴い、育児・家事へのかかわりは減少傾向に（図3 - 5）

次に子どもの年齢別に父親のかかわりを比較したのが図3 - 5である。まず年齢を問わず全体に共通した結果として、精神的サポートの得点が比較的高い傾向にある。また育児参加得点と家事参加得点では前者の方が高いことが指摘できる。

各領域ごとに見ると、まず精神的サポート得点は年齢によってほとんど変化がないことがわかる。それに対して育児・家事参加得点では子どもの加齢に伴い、得点が減少している傾向が見られる。これは統計的にも有意な結果になっており、特に育児参加得点では1歳、2歳、3歳と5歳、6歳との間に、家事参加得点では1歳と5歳、6歳の間に差があった。つまり子どもが大きくなるにつれて、父親の育児や家事へのかかわりが減少する傾向があると言えよう。

かかわりの多いフルタイム就労、少ないパートタイム就労（図3 - 6）

では母親の就業状況によって、父親のかかわりにどのような違いがあるのだろうか。その点を比較したのが図3 - 6である。これによれば精神的サポート、育児参加、家事参加いずれにおいてもフルタイム就労の世帯で、父親のかかわりが最も多いことが示されている。逆にパートタイム就労の母親の世帯では、父親のかかわりは3領域いずれにおいても低い得点を示している。現在仕事を持たない専業主婦と同様に父親の育児・家事参加得点が低い傾向が見られ、パートタイム就労の母親の、育児や家事への負担感が強いことを示唆する結果となっている。パートタイム就労には働き方に幅があるので一概には言えないが、仕事に加え、子育ても家事も母親がかなり担っているという現状がうかがえるのではないだろうか。

